
テモ譲歩文の文法化と主観化

——日中対照の立場から——

張 北林 李 光赫 趙 海城

要旨：日本語の「テモ」譲歩文は典型的形式、複合辞的形式と接続的形式といった三種類の形式がある。典型的形式は否定的継起、総括的譲歩関係、同類的譲歩関係を表せる。複合辞的形式は逆条件、話題提示などを表せる。接続的形式は逆条件、談話機能や逆接類複文の他の下位タイプを表せる。本稿は文法化と主観化の立場から考察した結果、「テモ」譲歩文の三類型は段階的に「文法化」されていくことが確認できた。この過程の中で、文法的意味の拡張と用法の変化が進むと同時に、主観性もだんだん強くなっていくことが分かった。

キーワード： テモ譲歩文、文法化、主観化、対照研究

0. はじめに

「テモ」を用いて表す譲歩文は典型的形式、複合辞的形式と接続的形式がある。この三形式間の関係とその派生変化過程を明らかにするため、本論では文法化と主観化の立場から分析しながら、日中両言語における譲歩文の相違を明らかにしたい。

1. 先行研究

文法化と主観化の立場からの研究は主に Traugott(1995) と Langacker(1991) が挙げられる。前者は文法化の過程で必ず主観化が関連していくとし、主観化とは意味論から語用論への変遷であるとされている。それに対して Langacker(1991) は認知的視点から話し手が自分の考えをどのような形式で表すかについて論じた。その他に、Finegan(1995) は主観化は1) 話し手の視点 (perspective)、2) 話し手の態度 (affect)、3) 話し手の認識 (epistemic modality) といった三方面から現れるとされている。

日本語のテモ譲歩文の研究には坂原(1985)、有田(2007)、日本語記述文法研究会(2008)、前田(2009)、Jacobsen(2011)などが挙げられるが、文法化の立場から複文における複合辞の研究には松木(2005)、三宅(2005)、砂川(2005)などがあるが、そのうち松木(2005)は文法化と主観化の立場から分析しており、接続的形式の立場

からの研究は日本語記述文法研究会 (2008)、張・趙 (2014) などがある。

以上のように、今までテモ譲歩文の研究は意味と構文からの研究は多いものの、認知的立場からの研究は少なく、そのうち複合辞的形式に対する研究及び三形式間の関係についての考察ははまだ少なく、なお解明されていないところもある。そこで、本論では文化化と主観化の立場から、これらの関係について総括的に考察することを試みる。

2. テモ譲歩文の典型的形式

典型的譲歩文は従属節に後続する「テモ」のことであり、「否定的継起」、「総括的譲歩関係」、「同類的譲歩関係」などの意味を表すが、ここではその意味について概観する。

2.1 否定的継起

「テモ」譲歩文は時間的「否定的継起」を表し、従属節に事態の介入がなく、時間軸の上での単なる「否定的継起関係」のみを表す (01, 02)。

- (01) a. 夜12時になっても、子供は帰ってこなかった。 Jacobsen (2011:16)
b. 到了深夜十二点，孩子仍没有回来。 筆者訳
- (02) a. 六時十五分になっても、ふかえりは現れなかった。村上春樹《1Q84-BOOK1》
b. 到了六分十五分，深绘里还没出现。 施小炜 译《1Q84-BOOK1》

Jacobsen (2011) では、例 (01a) の「テモ」における「モ」は時間的複数性を表しており、「子供が帰ってこなかった」という結果が深夜12時前に複数回発生していることを表すとされている (例えば10時、11時など)。つまり10時から、11時さらに12時までは話し手の「心的スキャンニング (mental scanning)」の過程を表し、時間の経過により話し手の心的我慢の限界に近づくことを表す。「夜12時」と「六時十五分」は話し手の心的態度 (affect) からすると「話し手の心的我慢の限界」であると言えるだろう。この場合は中国語では“P, 还/仍 Q”などで表す。

2.2 総括的譲歩関係と同類的譲歩関係

「テモ」譲歩文が条件を表す場合は「総括的譲歩関係」と「同類的譲歩関係」といった二つの場合がある。前節に「何、誰、どこ、いつ」などを用いる WH 疑問詞文の場合は「テモ」の「モ」は従属節が表す諸条件を総括する機能を果たす。ここでいう「総括的譲歩関係」とは前節で提示する諸条件の集合に対する総括的スキャンニングで同期的スキャンニングの過程のことである (03, 04)。このような総括的条件は中国語で“P, 都 Q”で表す場合が多い。

- (03) a. 何を考えても無駄であるような気がした…。 村上春樹《羊をめぐる冒険》
b. 我觉得想什么都好像无济于事。 林少华 译《寻羊历险记》
- (04) a. なにしろこの辺はどこを向いても似たような風景ですからね。

赤川次郎《三毛猫ホームズの駆落ち》

b. 这一帶的景色从哪个角度看都差不多的缘故！ 叶惠 译《三毛猫的私奔》

同類的譲歩関係は、前節で提示する諸条件がタクシスのに全部羅列することができず、その条件への把握は順次的スキャンニングになる。順次的スキャンニングの場合には最も典型的もしくは極端的条件を提示するのが普通である (05)。

(05) a. ドストユフスキーとまではいかななくても、きつとそこそこの二流にはなれたよ。

村上春樹《羊をめぐる冒険》

b. 即使比不得托尔斯泰，也肯定能挤进也还说过去的二流。

林少华 译《寻羊历险记》

(06) a. このことは、口が裂けても口外しませんからご安心ください。

赤川次郎《三毛猫ホームズの推理》

b. 这件事，我一定保密。

叶惠 译《三毛猫的推理》

典型的もしくは極端的条件は普通スケール上の極値であり、この極値に対する肯定あるいは否定は、話し手の認知領域の中での全ての条件に対して同質を持っていることを意味する。言い換えると、この極端なケースでさえ同じ結果をもたらすので、その他のケースの場合はなおさらであるという意味になる。このような典型的もしくは極端的条件は、(現実世界と違った) 仮想世界における比喩的な条件として設定するのがしばしばである (例えば例 (06) の「口が裂けても」)。このような同類的条件は中国語で“P, 也 Q”で表す場合が多い。

以上の分析から分かるように、総括的譲歩関係にせよ、同類的譲歩関係にせよ、いずれ条件集合に対する話し手の考察の視点 (perspective) が反映されていると言える。

3. 複合辞的形式

譲歩文の接続助詞「テモ」はその他の形式と結合して「にしても」、「といっても」、「としても」、「にかけても」など「複合辞」的形式で逆条件を表すが、“話題提示”などの用法に派生したものもある。今までの研究ではこの現象を「文法化現象」と見てきた。

松木 (2005) では「複合辞」という捉え方自体が元々共時的な観点から生まれたものであると述べている。三宅 (2005) では共時的の研究における文法化研究の意義を次の二点にまとめている。1) 同一の形式における内容語的な用法と機能語的な用法との連続性、及び両者の有機的な関連性を捉えることが可能になること。2) 文法化後の機能語としての意味・文法機能を説明する際に、文法化前の内容語としての意味からの類推が可能になること。

3.1 「にしても」和「といっても」

森田・松木 (1989) では「にしても」が「話題化・強調・仮定条件・確定条件・例示」

といった意味用法をもっており、「にして」は「時間・場所・状況」などの意味をもって、「ても」と結合して上記のようないろいろな意味を持つようになったとしている。

また、森田・松木(1989)は「といても」は「話題化・確定条件」の意味用法を持っているとされる。「といて」そのものが逆接の意味をもって「ても」と結合することで「話題提示」機能をもつようになったとされている。ということはこれら両形式とも文法化の過程で「話題提示」機能が派生してきたことになる。この点について Haiman(1978)では「条件そのものが話題である」としている。したがって、前節が条件節である譲歩複文は当然ながら「話題提示」を表せることになる。しかし、前節は従属節であるため、その「話題提示」機能がそれほど強くないことも事実である。例えば、条件節が名詞文の(08)は(07)に比べ、「話題提示」機能が顕在化している。

(07) a. 嘘をつくにしても、何かもう少しましな嘘がありそうなものではないか。

赤川次郎《三毛猫ホームズの推理》

b. 要撒谎，也该撒得漂亮些啊。

叶惠 译《三毛猫的推理》

(08) a. それに当の片岡と山波にしても (は／にしては)、一体どこへ泊まったのだろう？

赤川次郎《三毛猫ホームズの駆落ち》

b. 片岡和山波到底在哪儿投宿？

叶惠 译《三毛猫私奔》

話題提示の「にしても／といても」を「は／にしては」に置き換えても大意はそれほど変わらない(08)。ということは、これらの形式が話題提示の機能をもっていることを裏つけることになる。さらに「にしても／といても」の後ろに「さ／ねえ」などの伝達モダリティ形式を加えることで話題性が強まる。例えば、例(09)(10)での「さ／ねえ」は「トピックマーカー」機能をしており、前接する複合辞の話題性を強調する役割を果たすことになる。

(09) チョコレート工場といてもさ、森永とか明治とかああいう大きいのじゃなく…。

村上春樹《羊をめぐる冒険》

(10) お通夜といてもねえ、ただこうして集まるだけじゃ…。

赤川次郎《三毛猫ホームズの駆落ち》

その他にも、「にしても」は「強調」と「例示」を表せる(11、12)。

(11) 部屋の飾りつけ一つにしても、その家の女主人のこまやかな心遣いが表されていた。

森田・松木(1989: 64)

(12) 植物にしても、動物にしても、まず日本の風土や気候によって制限を受けていることが分かります。

森田・松木(1989: 136)

3.2 「としても」

「としても」は仮定を表す「とする」と「ても」で成り立っているが、森田・松木(1989)

では「としても」が「假定・確定」のどちらも表せるとしているが、日本語記述文法研究会(2008)では「としても」は複数の条件をつなぐ機能をなくしているとされている(13)。ということは「としても」の中の「ても」が既に複数条件の羅列機能が「消滅」したことを意味するが、「動詞意志形+としても」の場合はまだまだ条件的意味を表す場合が多い。

(13) *行くとしても行かないとしても、申し込み書を提出してください。

*何をするとしても、責任をもって行動することが大切だ。

日本語記述文法研究会(2008:151)

(14) 何をしようとしても、責任をもって行動することが大切だ。

3.3 「にかけても」

これらの複合辞の中で「テモ」の意味の希薄化が一番進んでいるのは「にかけても」である。「にかけて」は人に対する技術若しくは能力への評価を表す形式で、「テモ」と結合した形式「にかけても」は、「生命・名誉・信用・面子」など人間の価値観などに対する認識を表す語になっており、話し手の決心及び心構えなどを表すのに使われている(15)。

「にかけても」は複数条件の羅列あるいは単一条件では使えない(16, 17)。このように「にかけても」形式での「テモ」の意味の希薄化が他の形式より進んでいると言えよう。

(15) 私の信用にかけてもこの仕事はやり遂げなければならない。

森田・松木(1989:13)

(16) *行くにかけても行かないにかけても、申し込み書を提出してください。

*何をするにかけても、責任をもって行動することが大切だ。

(17) *行くにかけても、彼に知らせてください。

以上の表現形式はいくつかの形式が「テモ」と結合して「文法化」過程を経て形成したものである。階層構造の変化は「文法化」の最大の原因の一つである。つまり譲歩文の前節と「テモ」の間にこれらの形式が入ることで「テモ」の文法的位置の変化で前節に対して直接スキャンができなくなる。そのため文の意味も変化してしまう。このような変化は具体的には以下の幾つのパターンに属するものである。1) 一般化(generalization)。異なる形式の結合によって意味が拡大化・一般化・抽象化していく。異なる構造の形式が結合した後、本来の実質的意味を失い、一般的・抽象的な意味へと拡張する。3.1節での「にしても」はその典型的な例である。Traugott(1995)では文法化の初期段階では意味の「喪失」というよりは意味の「拡張」が起こり、実質的な意味は具体性を失い、より一般的・抽象的な意味へと拡張し、それと同時になんらかの文法的な機能を帯びようになり、機能の拡張も生じるとしている。2) 融合(mixture)。意味が段階的に融合していき、最終的に新しい意味を派生していく。「に

しても」と「といっても」の「話題化」はその例の一つである。3) 希薄化 (semantic bleaching)。本来持っている意味がだんだん消失していくことを指す。3.2節での「としても」と3.3節での「にかけても」はこれに属する。これらの形式での「テモ」は結合した後、その本来の意味が希薄化していく。

典型的形式から複合辞的形式への変化は譲歩文の文法化の第一歩であり、その第二歩は第4節で述べる接続的形式である。

4. 接続的形式

「テモ」を含む複合辞には、独立性が高い「と(は)言っても」、「そうはいつでも」、「それにしても」といった接続的形式があり、逆接の意味を表すだけでなく、談話機能も持つようになっている。日本語記述文法研究会(2009)では「と(は)いつでも」と「そうはいつでも」の後続句で、先行句の事態から予測される内容に一部制限を加えることを示している。

例えば(18)の後続句「甘いものなら何でも食べるわけではありません」は先行句「父は甘いものが好きでした」に対する一種の部分否定である。この場合は「と(は)いつでも」と「そうはいつでも」の代わりに否定及び累加を表す「ただ/ただし」に置き換えても大意は変わらない。

(18) 父は甘いものが好きでした。といても/そうはいつでも(ただ/ただし)、甘いものなら何でも食べるわけではありません。 日本語記述文法研究会(2009:83)

「それにしても」は話題転換もしくは話題再提示の機能を持っている(日本語記述文法研究会2009)。例えば、(19)の後続句は先行句の話題(羊)に対する再提示である。

(19) 夕食にはいろいろなものが出された。羊も食べた。鶏も食べた。ヤギのチーズも食べた。特産のワインも飲んだ。それにしても、あの羊には驚いた。香辛料が実にうまく使っている。 日本語記述文法研究会(2009:120)

今回の考察で接続的形式は「逆条件」と「談話機能」がある以外に、逆接類の複文の「軽転」(軽い逆接)と「解証」(後続句は先行句に対しての解釈、説明)といった意味用法への意味的拡張が見られることが分かった。この点は紙幅の関係で詳しく取り上げないで、次の5節で対訳例による日中両言語譲歩文の相違と対応関係について考察してみる。

5. 対訳例統計と分析

5.1 対訳例統計

本稿は日本文学作品7部¹⁾とその中国語訳を元に対訳例を統計したものである。「テモ(デモ)」文を以下の8種類に分類した。[I 否定的継起]、[II 総括的譲歩関係]、[III

同類的譲歩関係)、[IV複合辞的形式]、[V接続的形式]、[VIてもいい]、[VII単文]、[VIIIその他]。中国語訳は以下の10種類に分類した：[① p, 也 q]、[② p, 都 q]、[③ p, 还／仍 q]、[④ p, 却 q]、[⑤ p, 实在 q]、[⑥ p, 并 q]、[⑦ p, 又／亦 q]、[⑧ p, 他の副詞 q]²⁾、[⑨ p, 関連詞 q]³⁾、[⑩無標]。それを統計したものは<表1>のようになる。

<表1> テモ文と中国語訳の数

	① 也	② 都	③ 还 ／ 仍	④ 却	⑤ 实 在	⑥ 并	⑦ 又 ／ 亦	⑧ 他 の 副 詞	⑨ 関 連 詞	⑩ 無 標	合 計
I否定的継起	16	1	10	2	0	0	0	0	1	3	33
II総括的譲歩	34	85	9	1	0	0	1	5	1	32	168
III同類的譲歩	109	13	13	11	1	4	2	3	15	86	257
IV複合辞的形式	59	6	5	3	0	2	0	3	19	44	141
V接続的形式	36	17	3	2	4	0	2	14	35	64	177
VIてもいい	27	5	1	0	0	0	0	0	0	62	95
VII単文	2	2	1	0	0	0	0	1	0	12	18
VIIIその他	17	0	6	0	1	0	0	3	0	15	42
合計	300	129	48	19	6	6	5	29	71	318	931

今回の調査で「テモ(デモ)」の用例931例を得られたが、多い順からすると、[III同類的譲歩関係] (257例)、[V接続的形式] (177例)、[II総括的譲歩関係] (168例)。その一方、中国語訳のパターンからすると[⑩無標]のほかに数が多いのは[① p, 也 q] (300例)と[② p, 都 q] (129例)であった。本論での研究範囲は「テモ」譲歩文の用法(I～V類)であり、VI～VIII類は紙幅の関係もあり、稿を改めて考察する必要がある、ここでは触れないことにする。

5.2 分析

日中両言語の対応関係をはっきりするため、本論では中條清美・内山将夫・長谷川修治(2005)におけるGスコア、MIスコア、Tスコアといった関数検定方法⁴⁾を用い、「テモ」文と中国語訳パターンとの関連度を計算してみた。つまり「テモ」の分類8種類と中国語訳パターン10種類、合計(8×10=)80組になるが、最尤度比Gスコアのランキングから配列すると次の<表2>のようになる。

<表2> テモ文の分類と中国語訳の関連度関数

		最尤度値 G		MIスコア		Tスコア	
[1]	II総括的譲歩 + ②都	NO.1	296.63	NO.3	<u>2.87</u>	NO.1	7.96
[2]	III同類的譲歩 + ①也	NO.2	122.44	NO.18	1.40	NO.2	6.47
[3]	VIてもいい + ⑩無標	NO.3	117.55	NO.14	1.93	NO.3	5.81
[4]	V接続的形式 + ⑨関連詞	NO.4	78.97	NO.7	2.37	NO.4	4.78
[5]	IV複合辞 + ①也	NO.5	58.41	NO.19	1.38	NO.5	4.72
[6]	III同類的譲歩 + ⑩無標	NO.6	48.55	NO.27	0.97	NO.6	4.54
[7]	V接続的形式 + ⑩無標	NO.7	41.85	NO.22	1.08	NO.7	4.22
[8]	I否定的継起 + ③还／仍	NO.8	35.83	NO.1	<u>3.56</u>	NO.11	2.89
[9]	V接続的形式 + ⑧他の副詞	NO.9	29.54	NO.8	2.34	NO.9	3.00
[10]	IV複合辞 + ⑨関連詞	NO.10	25.30	NO.15	1.82	NO.8	3.13

以上の関数検定の検定結果は上述した日中対応関係を基本的に実証したことになるが、ここでは日本語から見た中国語と中国語から見た日本語といった二つの部分に分けてまとめてみる。

まずは日本語から見た中国語の対応関係を見てみよう。ここでいう「日本語から見た中国語の対応形式」とは日本語のこれらのテモ形式が中国語のどの形式に一番近いかということ明らかにするための分析である。従って「日本語から見た中国語の対応形式」は中心語であるテモ形式から見た共起語である中国語形式との関連度である。そのためここではGスコアとTスコアを基準に分析する。

第一に、[Ⅱ総括的譲歩関係+②都](G:No.1, MI:No.3, T:No.1)のGスコアは296.63で一番高い。これは日本語の「総括的譲歩関係」は中国語で基本的に“P, 都 Q”で表すことを意味する。これは2.1節で述べた対応関係と基本的に一致する。

また、[Ⅲ同類的譲歩関係+①也](G:No.2, MI:No.18, T:No.2)は日本語の「同類的譲歩関係」が“P, 也 Q”に、[Ⅰ否定的継起+③还/仍](G:No.8, MI:No.1, T:No.11)は「否定的継起」を表すテモ譲歩文が“P, 还/仍 Q”と意味的に近いことを表す。これも2.2節で述べたものの対応関係と基本的に一致すると言える。

第二に、複合辞の形式は[Ⅳ複合辞+①也](G:No.5, MI:No.19, T:No.5)と[Ⅳ複合辞+⑨関連詞](G:No.10, MI:No.15, T:No.8)で、前で述べたように“也”も「同類的譲歩関係」を表しており、このような「複合辞」と“也”の関連度から「複合辞」が「同類的譲歩関係」といった「条件的意味」を表すことを示唆している。実は中国語の“可是”“不过”も古典語での副詞から文法化されてきて、最終的に関連詞になったとされている。

第三に、接続的形式には[Ⅴ接続的形式+⑨関連詞](G:No.4, MI:No.7, T:No.4)がある。関連詞と高い関連度を示しているのは「接続的形式」が基本的に「談話標記」機能を果たすためだと考えられる。

次は中国語から見た日本語の対応関係を見てみよう。ここでいう「中国語から見た日本語の対応形式」とは中国語訳の諸形式からすると日本語のどの形式に一番近いかということ明らかにするための分析である。従って「中国語から見た日本語の対応形式」は共起語である中国語訳語から中心語であるテモ諸形式との関連度である。そのため、ここでは相互情報量を示すMIスコアを基準に分析する。

第一に、[Ⅰ否定的継起+③还/仍](G:No.8, MI:No.1, T:No.11)のMIスコアは3.56で一番高い。つまり「Ⅰ否定的継起」は“③还/仍”と関連度がそれほど高くないが、その逆として、“③还/仍”は「Ⅰ否定的継起」と関連度が一番高い。ということは「Ⅰ否定的継起」が必ずしも“③还/仍”に訳されるとは限らないが、“③还/仍”で訳されたテモは基本的に「Ⅰ否定的継起」であることを示す。

第二に、[Ⅱ総括的譲歩関係+②都](G:No.1, MI:No.3, T:No.1)のMIスコアは2.87で三番目に高いがそのGとTのスコアは共に一位である。つまり「Ⅱ総括的譲歩関係」からみた「②都」と「②都」からみた「Ⅱ総括的譲歩関係」のどちらも関連度が高いことを表す。ということはテモにおける「総括的譲歩関係」は“都”の意味が一番近く、“都”

で訳されるテモは基本的に「総括的譲歩関係」を表す場合であることを示す。

6. 結論

以上のように日本語のテモ譲歩文には典型的形式、複合辞的形式と接続的形式といった三種類の形式があり、この三類型は段階的に「文法化」されていくことが確認できた。典型的形式から複合辞的形式への「文法化」は文法的構造の変化過程であり、複合辞的形式から接続的形式への「文法化」は階層段階の変化過程である。Traugott (1995) では「文法化」過程ではよく「命題→テキスト→感情表出→伝達」といった変化過程を持っているとされている (20)。しかし、本論の考察では、日本語のテモ譲歩文の「文法化」過程はそれとやや異なった変化過程を示していることが分かった。つまり「命題→感情表出→伝達→テキスト」であり、これは典型的譲歩文はもともと強い主観性をもっており (第2節を参照のこと)、その後文法的意味の拡張と用法の変化が進む過程であると言える。

(20) propositionai → textual → expressive → interpersonal (番号は筆者)
 (命題) (テキスト) (感情表出) (伝達)

張 (2000 : 343) では中国語副詞の「文法化」過程は、副詞内部での変化と分化を経てさらに関連詞へ変化すると述べている。<表3> で示す中国語訳形式はその変化過程を実証するものとも言えるだろう。ということは、日中両言語の譲歩文の「文法化」過程は類型学的意味の上での共通性を持っていると言える。

<表3> 日中両言語の譲歩文の文法化過程

日本語	典型的形式			複合辞的形式	接続的形式
	否定的 継起	総括的 譲歩文	同類的 譲歩文	逆条件、話題提示など	逆条件、談話機能、逆接 条件文の他の下位タイプ
中国語	P, 还 / 仍 Q	P, 都 Q	P, 也 Q	P, 也 Q / P, 関連詞 Q	P, 関連詞 Q / P, 副詞 Q
文法化 過程	-----→				

紙幅の関係で、接続的形式の用法については詳しく触れることができなかったが、今後の課題とする。

注

- 『ノルウェイの森』、『羊をめぐる冒険』、『三毛猫ホームズの恐怖館』、『三毛猫ホームズの推理』、『三毛猫ホームズのクリスマス』、『三毛猫ホームズの駆落ち』、『1Q84-BOOK1』。
- 他の副詞はいずれ5個以下である、例えば“畢竟”、“总之”、“就”、“反正”など。
- “但”は28個、“可 / 可是”は26個、“不过 / 只是”は12個、“而”は5個である。
- 本稿における MI スコア、T スコア、G スコア (最尤度比) などのコロケーション測定方法は中條・内山・長谷川 (2005) の測定方法に準じたものである。MI スコアは相互情報量とも呼ばれていて、ある語

が共起相手の語の情報をどの程度持っているかを示す指標であり、MIスコアが高いほど双方向的関連度が高いことを表す。Tスコアは二つの語の共起関係の統計的有意性を図る指標であり、広く頻繁に用いられるコロケーションの判定に有用性が高い。Gスコア（最尤度比）はコロケーションを検出する上で最もバランスのとれた指標であるとされており、関連度の総合ランキングに値する。

参考文献

<日本語>

- 有田節子（2007）『日本語条件文と時制節性』くろしお出版
坂原茂（1985）『日常言語の推論』東京大学出版会
砂川有里子（2005）「言うを用いた複合辞」『複合辞研究の現在』pp.23～40
張北林・趙海城（2014）「関数検定から見たテモ文の日中対照研究」『明星大学人文学部研究紀要』50号 pp.33～44
張北林・李光赫（2012）「テモの再分類と日中対照研究」『漢日語言対比研究論叢（第3輯）』北京大学出版社 pp.89～106
張北林・李光赫（2013）「“総括”と“類同”から見たテモ譲歩文のモの作用域」『応用言語学研究論集（第7輯）』pp.40～48
中條清美・内山将夫・長谷川修治（2005）「統計的指標を利用した時事英語資料の特徴語選定に関する研究」『英語コーパス研究』12 pp.19～35
永野賢（1953）「表現文法の問題—複合辞の認定について—」『金田一博士古希記念言語民族論叢』三省堂
日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法⑥第11部複文』くろしお出版
日本語記述文法研究会編（2009）『現代日本語文法⑦第12部談話』くろしお出版
前田直子（2009）『日本語の複文』くろしお出版
益岡隆志（1997）『複文』くろしお出版
松木正恵（2005）「複合辞研究と文法化」『複合辞研究の現在』pp.197～220
三宅知広（2005）「現代日本語における文法化—内容語と機能語の連続性をめぐって—」『日本語の研究』1-3
森田良行・松木正恵（1989）『日本語表現文型 用例中心・複合辞の意味と用法』アルク出版
Jacobsen, Wesley M. 2011.「日本語における時間と現実性の相関関係」『国語研プロジェクトレビュー』No.5 pp.1～19

<中国語>

- 郭志良（1999）《現代汉语转折词语研究》北京语言大学出版社。
李光赫・張北林・張建偉（2012）《条件复句日汉对比研究》广东：世界图书出版公司。
李光赫・張北林・林楽青・王楠（2014）『複文における日中対照実証的研究』世界图书出版公司。
吕叔湘（1980）《现代汉语八百词》商务印书馆。
杉村博文（1992）<现代汉语“疑问代词+也都…”结构的语义分析>《世界汉语教学》第3期。
邢福义（2001）《汉语复句研究》商务印书馆。
張北林・李光赫（2014）<基于理论与实证的日汉让步句对比研究>《汉日語言対比研究論叢（第5輯）》北京大学出版社 pp.39～56。
張誼生（2000）《现代汉语副词研究》学林出版社。

<英語>

- Finegan, E. 1995. “Subjectivity and Subjectivisation: An Introduction.” in Stein, D and S. Wright, eds. *Subjectivity and Subjectivisation*. Cambridge: Cambridge University Press. 1-15.
Haiman John. 1978. “Conditionals are topics.” *Language*.54:564-589.
Langacker, R.W. 1991. *Foundation of Cognitive Grammar: Descriptive Application* Vol.2. Stanford: Stanford University Press.

Traugott, E.C.1995. "Subjectification in grammaticalization". in Dieter Stein and Susan Wright. eds. *Subjectivity and Subjectivisation*. Cambridge: Cambridge University Press. 37-54.

用例出典

原作品	翻訳版作品
『ノルウェイの森』 村上春樹 2004 講談社	林少华 訳 2007 上海译文出版社
『羊をめぐる冒険』 村上春樹 2004 講談社	林少华 訳 2007 上海译文出版社
『三毛猫ホームズの恐怖館』 赤川次郎 1986 角川書店	叶惠 訳 2006 博益出版社
『三毛猫ホームズの推理』 赤川次郎 1984 角川書店	叶惠 訳 2006 博益出版社
『三毛猫ホームズのクリスマス』 赤川次郎 1988 角川書店	叶惠 訳 2006 博益出版社
『三毛猫ホームズの駆落ち』 赤川次郎 1984 角川書店	叶惠 訳 2006 博益出版社
『1Q84-BOOK1』 村上春樹 2009 新潮社	施小炜 訳 2010 南海出版公司